事業所名：ハピネ五戸

作成日：　平成　　23年　12月　13日

２　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 ・介護度4.5の方が増えてきており、90歳以上の方もいる中、馴染みの関係から、終末期まで環境を変えることなく、安心してグループホーム内での生活を続けていただきたいという想いはあるが、対象となる事例もない為、模擬的事例の検討から始めていきたい。又、職員自身の不安を軽減する必要がある。	・重度化（終末期）ケアについて職員が研修する機会を設け、入居者個々の不安に寄り添い、考える。	①家族への意向を伺うアンケートの実施。 ②看護師による介護職員への吸引等の手技研修の計画的実践。 ③併設施設（特養）の取り組み状況を参考にグループホーム個別での試験的計画作成を行う。 ※事業計画に盛り込む	12か月
2	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 ・入居者と馴染みの関係が出来ていることは良いが、グループホームだけで完結し、他者が入りにくい環境に陥りやすい為、個人を尊重する姿勢が失われ、言葉遣いや呼びかけがぞんざいになってしまう恐れがある。職員間での慣れ合いが見られる。	・併設デイの利用者・職員との交流を図り、お互いを刺激し合える関係を作る。	①併設事業所や併設施設への実習を計画し、自施設の長所・短所を認識する。 ※事業計画に盛り込む	12か月
3	13	○災害体対策 ・災害協力隊員との合同避難訓練は行っているものの、その時だけで終わっている事が多い。地域交流を兼ね。普段から立ち寄っていただける様な関係作りをしていきたい。 ・又、協力隊員が支援しやすい設備の検討が不足している。	・協力隊員とのコミュニケーションを図り、グループホーム内の避難・救助設備の見直しを行う。	①協力隊員の周知 （職員一人ひとりが隊員の名前と顔を覚える） ②マニュアルの定期見直しを行う。 ③行事のお誘いをしてみる。 ※事業計画に盛り込む。	12か月
4					か月
5					か月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。